

Maxsil S1

低屈折率高硬度膜形成用コーティング剤

Maxsil S1 は、メチルシロキサンポリマーをベースにした、耐熱性に優れた熱硬化性・透明低屈折率膜形成材料です。

特長

- 疎水性・高硬度・低屈折率
- 優れた電気絶縁性
- 400°Cの耐熱性
- 優れた透明性（98%以上）
- 低温硬化可能・自己平坦化性

応用例

- 疎水性ハードコート、防汚コート
- 多層反射防止膜の低屈折率層
- 耐熱、絶縁性コーティング材料
- 半導体/TFT 用絶縁膜

使用方法

基板洗浄→塗布（スピンコート/スリットコート/バーコート）→プリバーク(150°C x 1 min) →熱硬化 180
~350°C x 30 min, 標準 250°C)

特性表

主溶剤	PGMEA	密着性	ガラス	TBD
固形分量	10~15% (調整可能)		ITO	TBD
薬液寿命	6 ヶ月 (4°C保存)	薬液耐性	PGMEA	TBD
粘度(20°C)	2.5 cP		純水	TBD
形成可能最大膜厚	0.3 μm		5% H ₂ SO ₄ aq.	TBD
屈折率	1.38 @ 550 nm (280°Cキュア時)		2% KOH aq.	TBD
可視光透過率	99%, 400~800 nm	耐熱性	5%膜厚減少	TBD
鉛筆硬度	5H (250°C硬化)		分解温度	380°C(空气中)

*TBD: 現在データ取得中

開発・製造元

マックス電子材料株式会社